

[月刊] キリスト教書評誌

本のひろば

出会い・本・人

読む、生きる意味を求めて 古橋昌尚

鼎談

『覆刻・日本基督一致教会信仰ノ箇条』

関川泰寛+五十嵐喜和+安田直人

本・批評と紹介

バーバラ・ブラウン・テラー 著／平野克己、古本みさ 訳
天の国の種 香山リカ

アンゼラム・グリューン 著／中道基夫、萩原佳奈子 訳
聖書入門 加山真路

P・アクティマイアー 著／村上実基 訳
現代聖書注解
ローマの信徒への手紙 越川弘英

村上 伸 著
ヨハネの黙示録を読もう 南 吉衛

落合建仁、小室尚子 著
聖書入門 嶋田順好

アルノ・グリューン 著／村椿嘉信、松田真理子 訳
私は戦争のない世界を望む 富田正樹

宗藤尚三 著
核時代における人間の責任 川上直哉

黒木安信 著
恵み深い主に感謝せよ 関田寛雄

及川 信 著
天地創造物語 生原美典

近刊情報

書店案内



9 SEPTEMBER
2014

米国有数の説教者ウィリモンが、未受洗者へ語ることの意味を示す



介入する神の言葉

洗礼を受けていない人への説教

W.H.ウィリモン 上田好春 訳

未受洗者に福音の力をどのように聴いてもらい、語るのか。神の言葉を語ることで教会は刷新され、新たに未受洗者への宣教の力となる。

あわせてどうぞ

◆四六判 並製・280頁・2,592円

姉妹編
(好評発売中)

異質な言葉の世界

—洗礼を受けた人にとっての説教

W.H.ウィリモン 上田好春 訳 2,376円

グループで 聖書を学ぶABC

R.ヘステネス 朴憲郁/上田好春 訳

信徒を主体とした聖書のグループ学習法を収録。グループでの学び方を20通り提示し、その特徴や準備、進め方などを示しつつ、わかりやすく解説。

◆A5判 並製・232頁・2,592円



イベントのご案内

皆さまのお祈りとお支えに感謝して
『信徒の友』創刊50周年記念

感謝礼拝・ライブ&トーク 大阪

■日時 2014年10月11日(土) 午後1時~3時

■会場 日本基督教団 東梅田教会
大阪市北区野崎町9番6号

■定員 先着240名

入場無料 ※入場整理券が必要です。



感謝礼拝.....

説教 春名康範氏 (日本基督教団 天満教会牧師)

ライブ&トーク.....

講師 桃井和馬氏 (写真家、ノンフィクション作家)

陣内大蔵氏 (日本基督教団東美教会牧師)

申込方法など、詳しくはホームページをご覧ください。



出会う・本・人

読む、生きる意味を求めて——古橋 昌尚

なぜ人は読むのか。一つには人生の意味を求めて、別の見方を救いを求めて、読む。そしてどちらも実は同じ意味なのである。人は読み、独りぼっちでないと知る。W・ニコルソンはC・S・ルイスとヘレン・J・デイヴィッドマンとの出会いを描いた映画『永遠の愛に生きて』(Shadowlands; 一九九三年)で、ルイスとその学生にこの台詞を宛てがっている。

人は読むことで人々や世界と出会い、それを通して新たな地平に導かれる。そこにつながりを見出し、独りでないことを覚える。読むことで、それが指し示す連帯と救いを探っているのかもしれない。独りでない、そこに人生の意味を見出す光がほのめかされ、そこに救いのはじまりがある。言葉がシンボルとして自らを超えて指し示す世界、つながり、意味、光、救いに導く。

人はW・パーシーの述べる「永遠の相のもと」の知、誰もがどこでも手に入るいわば普遍的な知ではなく、難船で漂流し孤島に辿り着いた生き残りが、海の彼方から瓶につめられたメッセージを待ち焦がれるように、自ら固有に意味をなす救いのメッセージを息をこらして待っている。それは世界の意味、そして人とのかわり、社会で自己が生きるつながりへの渴望でもあろう。

読書は人生の体験に代わるものとはなりえないが、生の味わい

の窓口にまで運んでくれる。読書によって人は人の痛みを体験できるわけではないが、未知の世界の入口にまで連れていく。また、すでに経験して識っていることを、意識のレベルに引き上げてくれる、この認知的働き、なるほど体験を提供してくれる。それによって生の意味づけに手を貸す。

件の映画は、幼少の頃に母を失うルイスが五十路を越えて出会う女性と死別した後に、次の言葉で締めくくられる。「なぜ愛は失われるとこれほどまでに痛みを与えるのか。もう私には答えがない。あるのは私が生きてきた人生だけだ。その人生で二度、大きな選択をした。少年のときと、大人になってから。その少年は自らの身を守る安全な道を選んだ。大人になって男は苦しみを選ぶ。この痛みこそは、かつての幸せを証しするものだ。」この脚本は私たちに問いを突きつける。耐えられぬ痛みを痕跡として残すほどの愛を体験したことがあるか。信仰の危機を招くほどの愛の喪失に遭遇したことがあるか。ルイスの神学も自らの体験を通して、深みと重みを加えてゆく。還暦前の神学者はまだ赤ん坊。この言に励まされて、テキストと現実、啓示と状況、そして自らの体験との間を行き来しながら、意義と救いの探求を続けている。

(ふるはし・まさなお 清泉女学院大学教授)

鼎談

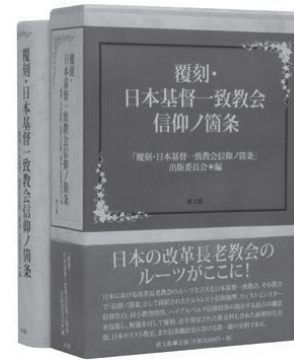
『覆刻・日本基督一致教会信仰ノ簡条』

「覆刻・日本基督一致教会信仰ノ簡条」出版委員会 編

日本の改革長老教会のルーツがここに！

関川泰寛＋五十嵐喜和＋安田直人

司会 高木誠一（教文館出版部）



(1) 内容と出版の経緯

司会 本日は、日本基督一致教会(以下、一致教会)の伝統を受け継ぐ、連合長老会(日本基督教団)、日本キリスト教会、日本キリスト改革派教会の先生方にお集まりいただきました。まずは本の内容と今回の出版に至るまでの経緯を、出版委員の安田先生からご説明いただけますか。

安田 まず本の内容ですが、今回の『覆刻・日本基督一致教会信仰ノ簡条』には、一致教会が採用したドルトレヒト信仰規準、ハイデルベルク信仰問答、そしてウェストミンスター信仰告白と小教理問答の当時の翻訳が原寸で収められています。また関連資料の中には、『基督教禮拜式』の「信仰簡条」に収められていた使徒信条、ニカイア信条、アタナシオス信条の翻訳も収録されています。

次に出版までの経緯です。一五年程前に、ウェストミンスターの研究者の松谷好明先生より、S・W・カラザースの書物にウェストミンスター小教理問答の日本語訳への

版されたということは、すごく刺激になると思います。

安田 東神大には一致教会時代の蔵書がたぶんまだたくさんありますよね。

関川 はい、ただ未整理のものが多いと思います。それは、日本基督教団の一致教会への評価とも関係するかもしれませんが、日本基督教団には誤解された公会主義への幻想というものがあって、それで一致教会時代は研究対象として意識されていなかったのだと思います。

五十嵐 それは日本キリスト教会も同じです。植村正久が、一致教会が採択した四つの「信仰ノ簡条」について、ゴリアテの前にダビデにまとわせた「鎧」のようなものとか「四筋の鎖」であると言った言葉や、山本秀煌の影響によりますね。私が一致教会のことを調べ始めたのは四〇年近く前のことですが、当時日本キリスト教会神学校の主任講師であった渡辺信夫先生から特別講義を依頼されて、当時あまり研究されていない一致教会を取り上げました。「はじめに」のところにも書きましたけれど

言及があることを教えていただきました。そこからプリンストン神学校のB・B・ウォーフィールド文庫に、ドルトレヒト信仰規準、そしてウェストミンスター信仰告白

と小教理問答が収められていることが分かったのです。こういう新しい発見が幾つか重なったこともあり、東京神学大学などの蔵書を加えて一冊にならないか考えたわけです。その後、教文館と具体的な相談をして、正式な委員会を立ち上げ、今回の出版に至りました。

関川 カラザースの話が出て、そして翻訳があるということで辿ってみただけですか。

安田 そうです。その当時、ウォーフィールドは各地の宣教師に依頼を出して、各国語訳のウェストミンスター信仰規準を全部収集しようとしたようです。その目録をカラザースが作っていた。

五十嵐 一致教会の中文記録には翻訳までの経緯が出てきますね。

安田 はい。ただ、ウェストミンスター小教理問答が翻訳されているのはわかって

いましたが、信仰告白やドルトレヒト信仰規準が実際に出てくるとは思いませんでした。

関川 今回の覆刻は高精細の写真で撮影したものです。これは最初からそういう方針だったのですか。

安田 はい。しかも原寸で覆刻にしたいという強い願いがありました。本の判型の関係で関連資料2の『基督教禮拜式』の「信仰簡条」だけが少し縮小されていますが、あとはすべて原寸大で覆刻しています。

関川 大変貴重な歴史的資料がわれわれの目の前にあるわけですね。非常に感動いたしました。

司会 東京神学大学をはじめ、上智大学キリシタン文庫や安川家の全面的な協力があってできた企画です。撮影や寸法を測るために何度も足を運ばせていただきました。

関川 東神大でも日本キリスト教史への関心が学生たちの間に高まっています。どうしても一致教会時代の一次資料に基づいて研究するというのは難しい。これが出

ども、当時はほとんど資料がありませんでした。

今回の出版で考えたことの一つは「公会」という言葉です。それがどこから来たのか分からない。石原謙先生はカソリックチャーチ(公会)が公会だという認識です。しかし、植村正久が公会について説明している箇所が見つからなかった。それが、つい先日、植村正久の書いた文章の中に思いがけない言葉を見つけました。それは、彼の「基督と教師」という文章の中に「公会説教をする」「公会の演説をする」という言葉が出てきたのです。

関川 それは「講解説教」ということで何か？

五十嵐 いや、「公の会で説教する」という意味です。だから、植村にとってはそういう認識しかない。「教会」という言葉が、当時まだ聖書に使われていなくて、それで「公会」にした。これは幸日出男さんが突き止めたことでもあります、まだ誤解されている。

関川 私も五十嵐先生の『日本基督教会

以降、キリスト教が社会の中にどんどん浸透していく。ミッションスクールも創立されます。また、聖書翻訳や讃美歌の編纂、キリスト教文学も盛んに行われました。そのように力を得て組合教会との合同運動を始めたのです。合同が成立すれば大半の教会がこれに含まれるという目論見もあったようです。しかし、結局それは成り立たなかった。同志社大学の土肥昭夫さんは、一致教会の歴史に否定的でありながら、これを跳躍台として超克しようとしたところに生まれたのが日本基督教会だ、と言っています。土肥さんの指摘はある一面はあっていますが、果たしてそうなのかという問いが私にはありません。植村は、一致教会時代の「信仰ノ簡条」はあまりにも煩雑すぎるし、日本の教会にはふさわしくないと言う。けれども、あの時に日本基督教会が身に付けたものとはとても大切だったと、彼は一致教会が終わった直後に言っています。彼は、保守と進歩を調和して変化と堅固を兼ねた地盤を作ったのだという認識です。だから一三年の

史の諸問題」などを読んでなるほど思った記憶があります。ただ残念ながらそれは必ずしも日本基督教会では共有されていません。だから、日本基督教会の一九四一年の設立は、公会の復興・再興であるという考えが未だに強くあるわけです。

(2) 日本基督一致教会とは何か

—— 成立と歴史的展開

司会 一致教会の大まかな歴史を五十嵐先生から説明していただけませんか。

五十嵐 一致教会というのは一八七七年に、アメリカ・オランダ改革派教会系の四教会と、アメリカ長老教会系の五教会が合同してできた教会です。その時に、スコットランド一致長老教会ミッションにも呼びかけ、日本における神学教育と伝道のために協力できないか話し合われました。この三者が「吸収」ではなく、「合同」するため、教会制度はアメリカ長老教会から、信仰告白は他の二つの教派から提供するということになりました。それで結局「信仰ノ簡条」として、今回収録されたドルトレヒ

一致教会時代というのは、その後の日本基督教会の路線を作ったと私は思っています。関川 やがて一致教会が終わる一八九〇年を迎えます。日本の欧化主義も変化していきます。そのあたりを五十嵐先生はどのようにお考えですか。

五十嵐 それが結局問題なのだと思います。一八九〇年というのは、第一回帝国国会が一二月に始まって、それにぶつけて一致教会も第六回大会を開きました。そこで憲法規則の改正や信仰告白も短いものになります。教会もまた自主独立でやっていくという意識があったのだと思います。

関川 一致教会の一三年間は激動の時代です。欧化主義の高まりがあり、やがて教勢が落ちていく。国粹主義の時代を迎えるわけです。全体からいえばまだキリスト者の数はマイノリティですね。しかし、教会の側から見れば、やがて日本はキリスト教国になるかもしれないというぐらいの熱気が一方ではあった。同時に政治の側からいえば、新しい日本を作っていくなければいけないわけだから、キリスト教に対する期



五十嵐喜和氏

ト信仰規準、ウエストミンスター信仰告白、同小教理問答、そしてハイデルベルク信仰問答が採択されました。その他にも、『礼拝模範』や『懲戒条例』それに『基督教禮拜式』などを備え、教理的にも制度的にも堅固な教会が生まれたわけです。当初は一つの中会だったのが三つ、五つと増えていきます。大会もできてくる。

また欧化主義の時代ですから、一八七七

待が当然あったわけですね。しかし、それは急速にしぼんでいきます。それがちょうど激動の過渡期、一致教会の時代ですね。そういう国家主義的な雲行きの中で、宣教師に対する評価というのは一貫しているのですか。

五十嵐 もちろん感謝はしています。山本秀煌も『日本基督教会史』の中で宣教師に対する感謝があります。ですが同時に、日本の教会の自主独立を考えていますから、宣教師からはできるだけ早く一線を画して、教会も日本人の手でという思いが強いのです。

関川 ですから逆に言うと、一致教会時代に四つの「信仰ノ簡条」が翻訳されたけれども、それを深めて神学的に精査していくということにはならなくなっていくように思うのです。むしろ短い簡易信条になっていく。そうすると、宣教師たちに対する態度・評価と、「自分たちの国のキリスト教」という強い意識が結びついている。キリスト教の普遍性とか歴史的展開という土俵で議論するという素地が本当にはでき

ていないのではないかと思うのです。私は、これからの課題は、この四つの信仰告白がその後の日本の牧師の説教や神学的な考え方にどれくらい影響を与えたかということだと思えます。無意味だとは言えないだろうし、植村が言うようにそこで学んだものがあるのだと思いますね。けれども、それがどの程度なのか。植村がハイデルベルク信仰問答をどのように評価しているのか調べてみても、彼はほとんど触れていません。ウェストミンスターに対する批判は大変厳しいですけれども(笑)。

安田 四つの信条のうち二つはあまり受け入れられず、二つの信仰問答は使われたと言われます。今回、五十嵐先生が「季刊教会」(二〇一四年夏号)に書かれた論文の中にも、アメルマンの『教会政治』では、一致神学校でハイデルベルク信仰問答が教えられたことがわかる、との言及がありました。それからノックスが書いたウェストミンスター小教理問答の解説はよく用いられたのだと思います。ハイデルベルク信仰問答とウェストミンスター小教理問答に限

日本基督教団の中で公会の幻想的・非歴史的な理解が相当広く行き渡っていました。

一九四一年の日本基督教団の成立というのは日本プロテスタントの歴史の発端になった公会の実現・成就だという史観です。連合長老会は必ずしもそれには与していませんが、日本基督教団におりますと、そういう理解がほとんど入り込んできます。

五十嵐 日本キリスト教会は、一九五一年に日本基督教団を離脱して創立大会を開いて歩み出すときに、旧日本基督教会の一八九〇年の信仰の告白を一応継承しました。一九五三年に新たに信仰告白を作り直した。それは、一八九〇年の信仰の告白に立ってきた旧日本基督教会が戦時中に戦争に巻き込まれてしまってそれに抵抗できなかった、そして旧日本基督教会自身が四分五裂してしまっただけという反省からです。では、新しい日本基督教会が旧日本基督教会を受け継いで歩み出したということは、旧日本基督教会を再建するということなのかというと、そうではない。新しい教会を生み出す。そこに旧日本基督教会の信仰告白

つていえば、教科書として用いられ、教師試験に使われたということは、教師を目指す者はそれを一所懸命勉強しなければいけないわけですね。それが説教に影響を及ぼさないということはないと私は思うのです。確かに四つは「鎖」として重たかったかもしれないけれども、もう少し広い世界の信条に日本の教会の視野を広げたという役割を果たしたのではないかと気がします。

(3) 日本基督一致教会の評価

司会 それぞれの教会・教派では、一致教会時代を現状ではどのように受け止めておられますか。

関川 連合長老会は、日本基督教団にあつて日本基督教会という旧教派の流れを汲む諸教会が一九七〇年代頃から、旧教派の伝統と信仰を生かしながら教会の形成しようというグループなのです。この連合長老会の周辺に日本基督教団改革長老教会協議会を形成してきました。そういう観点から、常に自分たちの辿ってきた歴史を思い起こすということをしています。特に重ん

には盛られていない改革派的なものが加わっていききました。熊野義孝先生が、「(新しい)日本基督教会の信仰告白は旧日本基督教会のものと同様同じだ。しかしやや教派的である」と仰っています。

一九六九年に、靖国闘争や神学校問題が起きます。そこから改めてアイデンティティを問うために、改革派教会のいろいろな信仰告白の翻訳を委員会が始めるようになります。その後一九九五年になつて憲法規則を改正した時に、信仰告白を憲法規則の中に盛り込みました。その信仰告白として盛り込まれたのが、一九五三年第三回大会において制定され、一九八五年第三回大会で一部改正された信仰告白です。この信仰告白は使徒信条、ニカイア信条、ハイデルベルク信仰問答、ウェストミンスター信仰告白、そして一八九〇年に制定された日本基督教会の信仰の告白に言い表されている信仰を継承しています。この中でも日本キリスト教会では、ハイデルベルク信仰問答がよく用いられていると思います。この信仰告白を日本の教会が正式に自分たち

てきたのが一八九〇年の日本基督教会の信仰の告白です。長い間、一八九〇年の信仰の告白と一九五四年にできた日本基督教団の信仰告白をあわせて採択するというのが連合長老会の立場でした。けれども、先頃規則を改正して、「一八九〇年の信仰の告白に基づいて教団信仰告白を告白する」と改めました。日本基督教団の信仰告白を告白するけれども、それは一八九〇年の旧日本基督教会時代の信仰告白に基づいて告白する。なぜ基づくかということ、その時代に信仰と職制が一定程度つながっていたわけで、それを今の日本基督教団の中で具体化して教会の群れを作るうではないかということですね。

連合長老会では、一致教会については長くネガティブに論じられてきました。非常に単純な図式で、外国語の信仰告白をただ奉じて宣教師たちの主導によって成り立った教会、それが一三年間続いていて、それを乗り越えたかたちで一八九〇年の信仰の告白ができたという理解が一つです。もう一つは、先ほど申し上げましたけれども、

の信仰告白として受け入れたのが、あの一致教会であった。これはとても意義深いと思うのです。

安田 日本キリスト改革派教会は、一九四六年四月に日本基督教団を離脱しました。当時、賀川豊彦先生や竹森満佐一先生からの批判がありました。ただ、敗戦以前の段階から、正統神学会という神学研究会があり、そこで下打ち合わせがなされ、ほぼ同意されていたことだったと思います。そのときには信仰告白は、個人訳は完成していましたがけれども、全体として使用に耐えうる翻訳はまだ完成していません。「教会政治」や「憲法」も同じで、南長老派ミッションのものなどを翻訳しながら、改訂を施していった。そういう意味では一致教会が試みたことを、時を経て同じように繰り返してきたのだと思います。私たちの教派の『日本基督教改革派教会史』では、日本基督教会と一致教会を「前史」として扱っています。ただ、二〇一一年に五十嵐先生の手によって出された『日本キリスト教会五〇年史』ではもっとはっきりとした時期区分が

なされて、一致教会がきちんと位置付けられている。私ももう少しきちんとした位置づけがなされなければならぬと思います。

司会 各教会について質問があれば。

関川 改革派教会では、一八九〇年の信仰の告白を顧みることがほとんどなかったということですか。

安田 そうですね。一八九〇年のものも、一九四五年や一九五三年のものも一緒にして「簡易信条」という括りで見る風潮がありました。

改革派教会にはウエストミンスター信仰規程を採用した時の「前文」があります。そこには、ウエストミンスター信仰基準を私たちの教派の信仰告白として採用するけれども、これは宗教改革時代の三十数個の信条の中で最も完備したものとして、教理の体系として採用するとあります。改革派教会が目指しているのは、「われらの言葉をもって、新しい信条を作成する日を祈り求むる」という点にあります。一九七六年に三〇周年記念宣言が採択されますが、それ

五十嵐 私も「はじめに」のところに、基本信条を採用するというのが改革教会の本質に属するというを書きました。けれども日本の教会では残念ながらよい用いられ方をしなかったのだと思います。日本キリスト教会がニカイア信条に注目し始めたのもごく最近です。大会委員会で翻訳して一応受け入れられています。ただ、実際にそれが礼拝で使用されているかというところ、よほど準備しないと難しい。

安田 ニカイア信条は連合長老会では広く用いられていますよね。関川先生が研究なさった。日本の教会にとって非常に意義のあることだと思います。他の教派、教団もかなり恩恵を受けています。

関川 ニカイア信条は最もエキメニユカルな信仰告白ですし、私は基本信条の中に現代の私たちの教会を生かす、父、子、聖霊なる神の現臨を賛美し、その賛美の中に教会が形成されるという積極的意義があると思います。私は、そこは四つの信仰告白を採択した一致教会から簡易信条の日本基督教会へと移った非常にポジティブな側面

以来一〇周年おきに記念宣言を出してきました。「信仰の宣言」と申しますけれども、国家、聖書、聖霊、福音の宣教、予定、終末の希望とすべてを一度にできないので、一〇年おきに積み重ねてきました。このために、その一〇年ごとの信仰の宣言を積み重ねるということにエネルギーを注ぎました。これは、簡易信条に対する強い批判から出ていると思います。

関川 連合長老会の場合、簡易信条を重んじるというのは、一致教会時代の正確な評価があつたことというよりは、一つは植村正久に対する敬愛と信頼と継承の意思が相当あると思います。それで、一八九〇年の信仰の告白と同時に、ニカイア信条を重んじてきました。一八九〇年の信仰告白の前文にニカイア信条の文言が非常に強く反映しているということがあつて、これこそ本当の意味で公同の信仰であり、それを継承したいという思いが強かったのだと思います。

日本基督教団は「公同性」という意識が非常に希薄です。ですから連合長老会では、

と見て見ているところがあります。実際、教会形成において一八九〇年の簡易信条あるいは日本基督教団の信仰告白だけでは足りないわけです。そのことによっていろいろなキリスト論が出てきて揺れ動いています。だから、本当は一致教会時代のような信仰告白による一致を模索していかなければいけないと思います。プロテスタントの歴史は基本信条があつて、そこから信仰

一八九〇年の信仰の告白に戻って、そこから旧日本基督教会時代の流れの中に自分たちがいるんだという理解なんです。逆に、そこから切り落とされてしまふのが一致教会時代です。ただ、それが一致教会の資料が出てくることによって、相当変わる可能性があります。歴史の理解そのものが変わらなないといけない。

安田 関川先生が言われたことの中に公同信条、基本信条のことが出てきました。実は、今回の出版に際して、『基督教禮拜式』の中の基本信条を関連資料として採録するという話が編集委員会の中で出てきたときに、改革派教会の委員の中からは反論が出ました。それは、一致教会の最大の特徴は四つの信条が採択されたことであると理解されたからです。しかし、その当時、実際に使われていた『基督教禮拜式』の中に基本信条が訳されて使用されていたこととの重みは大きいと思います。改革派教会の中でも礼拝式文の改定が進んでいまして、その中で基本信条の位置づけについてようやく議論が起り始めているところです。

告白が生まれてくる。日本の教会は、四つの信仰告白が出て、それから簡易信条となつていった。非常に面白い歴史をたどっているわけです。

安田 話が少し横にそれますが、簡易信条という路線自体は、アジアの中ではそれほど特異ではありません。インドや韓国でもそうでした。日本で簡易信条という路線が最初からあつてもおかしくない。むしろ驚くのは、当時のアジアの教会に目を向けるときに、日本では四つの信仰告白が採択されたということです。

関川 非常に面白いですね。

安田 今回、このアジアの教会の中での意義ということを新しく教えられました。

司会 解説に出てきましたが、信仰告白の翻訳を通して神学用語が確定していきまね。これは普段意識しませんが、大変な遺産だと思ふのです。

安田 そうですね。「聖礼典」「摂理」「恵みの契約」「キリストの仲保」、あるいは先ほど出てきた「公会」などもそうですね。このあたりは今後の研究課題だと思います。



関川泰寛氏

聖書やウェストミンスター信仰規程が既に日本に入ってきていて、『教会政治』や『教会勸懲条例』も入ってきていたにもかかわらず、同じ言葉に対して違う訳語を選択する場合がある。そういうときにいったいどういう動機でなされたのか。京都大学の山徹先生が『仏典はどう漢訳されたのか』という本を出されました。サンسكريットを漢語に音訳するときに、漢語の意味を変えて使う場合と、全く新しく漢字を作ってしまう場合があったそうです。

五十嵐 漢字自体をですか。

安田 私の調べた範囲では、「信仰ノ箇条」に収録されたものの中には新しい漢字を作るということはなかったと思いますが、今まであった漢字を違う意味で使う、または新しい熟語を作ったということはあります。ぜひどなたかに研究していただきたい。神学用語、教理用語というのは、私たちに当たり前になってしまっています。これを初めて読んだ人々にとっては、まったく新しい衝撃的な熟語が目飛び込んできたと思いますね。



安田直人氏

ねりの中で、アメリカで新訳が生み出されて、それをもとに日本語でも「鄙【ひな】語【ことば】」で翻訳したいという熱意です。ハイデルベルク信仰問答が四五〇周年を迎え、そしてこれから宗教改革五〇〇周年を迎えようとしています。節目の時に、教理についての強い興味と関心が起こり、教会を新しくするのだと思われました。

関川 写真による覆刻というのは、そういう研究をするのにも役立つと思いますね。

(4)『覆刻・日本基督一致教会信仰ノ箇条』出版の意義

司会 改めて、今回の出版の意義についてお話しいただけますか。

関川 日本の教会には、信仰告白というのはなじまないとか教会を硬直化させるといふ思いがどこかにありますよね。しかし、こういう資料を見て初めてそうでないことがわかると思います。聖書や讚美歌と並んで、信仰問答や信仰告白が真先に翻訳されて、伝道が始まったばかりの日本に教会が形成されていった。これは宣教師たちの意欲でもあるけれども、翻訳者の大変な努力によるものです。信仰告白は教会を硬直化させるのではなくて、むしろ生き生きと伝道がなされている時代にこういうことが成し遂げられた。このことを知ってもらいたいと思います。

五十嵐 私は植村のものを読みながら、彼がなぜウェストミンスターを目の敵みた

司会 節目の時に新しい教会のうねりが生まれる。

五十嵐 一致教会は、神学教育と伝道を協力していくことで始まりました。今回こういう形でこの書物ができて、日本においても教会の協力が生まれてよいと思います。連合長老会、日本キリスト改革派教会、日本キリスト教会の牧師、そして長老系の神学校で教える福音派の教師も加わって今回の本が生まれました。ここからまた新しい交わりが生まれるとうれしいですね。

関川 歴史を正確にもう一回捉え直すことによって、広い連携ができる可能性がある。

安田 現代における一致教会ですね。

関川 可能性の発端になっていくと思います。

五十嵐 そういう点でもとても意義があるのではないかと思います。

司会 本日はどうもありがとうございます。

いにするのかがよく分かりませんでした。彼にとっては出来上がったものは既に固定化されてしまったという認識なんです。けれども、むしろわれわれは、できたものを解釈して今の時代に生かしていくわけです。そういう作業が私たちには必要なわけです。それぞれの信仰問答、信仰告白が、今の時代にどういう言葉になっていくのかということを決えず掘り起こしていかないといけない。ハイデルベルク信仰問答の問1の「慰め」という言葉が、ここでは「安慰」という漢字になっています。そこに「なぐさめ」とふりがなをつけています。「安慰」という言葉はとても柔らかい印象ですね。けれども、ドイツ語の Trost という言葉は非常に強い言葉、だということが今では言われています。一つひとつの言葉を翻訳し直しながら、今の時代に響く意味を探し求めていく。

安田 私は今回、ハイデルベルク信仰問答の解題を書かせていただきました。この翻訳を生み出したのは、ハイデルベルク信仰問答三五〇周年という教会史の大きなう

(せきかわ・やすひろ) 東京神学大学教授、日本基督教団大森めぐみ教会牧師)

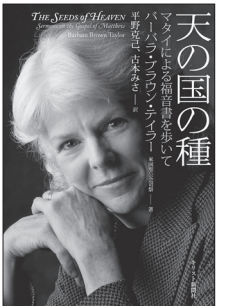
(いがらし・よしかず) 日本キリスト教会茅ヶ崎東教会牧師)

(やすだ・なおと) 日本キリスト改革派田無教会牧師)

(A5判・上製・函入・九二八頁・本体一八〇〇円十税・教文館)

「聖書はちよつと」と尻込みしている人にこそ
 バーバラ・ブラウン・テラー著
 平野克己、古本みさ訳

天の国の種
 マタイによる福音書を歩いて



香山リカ

聖書との出会いは人それぞれ。クリスチャンホームに育ち、幼い頃からごく自然に聖書がそばにあったという人もいれば、大学の授業のキリスト教関連科目で触れた人、社会に出てから壁にぶつかり生きるヒントを求めて手に取った、という人もいるはずだ。その中には、最初から聖書との「相性」がバツチリという人もいるかもしれないが、「ピンとこない」「主は立派すぎてついていけない」という人もいるに違いない。本書は、どちらかといえばその後者の人たちに向けて書かれた一冊かもしれない。

15章立ての本書の構成は、とてもシンプルだ。各章の冒頭で「マタイによる福音書」が数節から10節程度、紹介され、それについて聖公会の女性司祭である著者が話し口調でやさしく解説する。しかし、構成はシンプルだが、その内容はユニークでかつ深い。

私自身がはっとしたのは、「悪霊に苦しめられている娘の救済を願う母」の箇所を取り上げた章だ。ここで主イエスは、ひ

れ伏して懇願する母を「子供たちのパンを取って小犬にやっつてはいけない」といったんは拒絶する。しかし、母はそれでもひるまず「小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです」と言い、すると主は「あなたの信仰は立派だ」と娘の病を癒すのである。

主イエスは最初、なぜ拒絶したのか。それなのになぜ翻意したのか。私は長いことこの「パン屑のたとえ」がわからずにいた。著者は、主はカナン人である母親に「一線を引かれた」とはつきり言う。「この異邦人の女にエネルギーを浪費することなど、主はなさろうとしません」。愛の人といわれる主も、現実には失望し疲れ果て「もう、たくさんだ」と思う瞬間もあった、と著者は言うのである。

しかし、一線を引かれ、「小犬にやるパン屑はない」とまで言われた女性が、なお「主人の食卓から落ちるパン屑はいただく」とすがったとき、「主イエスの中の何かがパチンと音を立

の女性の間に引いた線が消え」と言うのだ。

私は、福音書にはこのような主の人間くささ、主の弱さがエピソードやたとえ話の形で描かれていることに、今まで気づかなかった。一から十までとにかく「主はご立派、誤っている点など何ひとつない」という礼賛が記されているのが福音書だと思いついてきたのだ。

本書にはほかに、主の「意外な一面」がいくつも取り上げられている。「神は、わたしの心地よさや身の安全を大切なこととは思っておられません。神は、わたしが幸せであるかそうでないかなど、気にかけてはおられないのです」と著者は言う。「えっ、私の幸せを保証してくれるのが主じゃないの?」じゃ、神が心に留めてくれるのは何?」と聞き返したくなるが、著者は「それは、わたしの人生の質です」とやさしい口調ながらはつきり答える。

ときには人に厳しく、それでもこたえてくれない人間にがっ

なぜ神は悔いるのか 旧約的
 神観の深層

イエルク・イエレミアス 関根清三／丸山まつ 訳



超越者でありながら、神が「思いを変え」るのはなぜか。「悔いる神」のモチーフから、旧約聖書における、究極的には人類を救おうとする神の意志に迫る。
 A5判 上製・226頁・3240円

「神が与える信仰を、人は教えるのか」を問う

新約聖書の教育思想 山内一郎



福音書は「教師イエス」をどのように描いているか、原始教会は信徒の形成をどう担ったかを明らかにする、教会教育を考えるための必読基本文献。
 A5判 上製・330頁・3456円

かりして疲れ果て、ときにはその人間の言葉によって新たな「気づき」を得る。これまで知らなかった主の姿が、著者のおだやかな語り口の中から生き生きと立ち上がってくる。「聖書には精通している」と豪語する人だけでなく、「聖書はちよつと」と尻込みしている人にこそ、ぜひ手にとってもらいたい一冊だ。

(かやま・りか 精神科医)
 (四六判・二二四頁・本体二〇〇円+税・キリスト新聞社)

日本キリスト教団出版局
 〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
 ☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
 E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp 《価格8%税込》
<http://bp-uccj.jp>

聖書と出会い直したい人の「絶好のガイドブック」

アンゼルス・グリーン著
中道基夫、萩原佳奈子訳

聖書入門



加山真路

聖書の入門書は数多ある。きれいな写真とわかりやすい図解で彩られ、初心者でもわかるように企画された、いわゆるムック本もたくさんある。さて、そのものずばり『聖書入門』と題された本書はどうか。まず目に留まったのが装丁。ポップで明るく、デザインも、なかなか意味深長だ。そして横書きなのも今風。大きさは四六判で二二二頁。持ち運びにも程よい。

著者のアンゼルス・グリーンは、一九四五年生まれのドイツ人で、ベネディクト会修道士。教父哲学を研究し、現代心理学にも精通、スピリチュアル・カウンセラーとしても活躍している。大変な多作家である。そんな著者が本書を記したのは二〇一〇年のこと。「傷つき、病める存在」である現代人にとって聖書を読むことが「癒し」になる、神の言葉は現代人に「過去の傷ついた経験を見させ、それが癒されるまで」導いてくれる——そう信じてのことであった（一五頁）。

とは言い、本書は現代人／現代社会の病理に対する処方箋を示すわけではない。むしろ「聖書を読む」という体験そのものへと誘う。何千年も前に書かれた書物が、現代人にとってどれほどわかりにくいものか。それを十分理解したうえで、著者

は、いわば登山のガイド役を買って出ているのだ。たとえば聖書の全六十六巻（プラス続編）を、「神の契約の歴史」「人生の知恵」「預言者」「イエスの歴史」「パウロの手紙」「初期キリスト教の手紙」「ヨハネの黙示録」という大きな流れの中で、一つずつ紹介していく。それぞれの山容（ストーリー）をコンパクトにまとめつつ、独特の視点（著者のメタファーを借りるなら「眼鏡」）で、その特質と本質を的確に、わかりやすく教えてくれる。そして、それぞれの最後に、中心となる聖句が引用され、じかに聖書と触れ合う機会が用意されている。

そのアプローチは、徹頭徹尾スピリチュアル（霊的）である。それが、本書の「はじめに」と、序論にあたる「聖書を読むために」、さらに「おわりに」で繰り返し説明されている。土台となっているのが、*lectio divina* という読み方だ。まずは *lectio*（ゆっくり読むこと）。その中で生まれたさまざまな想いが *meditatio*（じっくり思いめぐらせること）で深められる。それは *oratio*（祈り）となって、最後は *contemplatio*（神と一つになること）へと導かれていく読みやすい。また、「訳者あとがき」も、一緒に山を登り切った後のような、さわやかな思いにさせてくれる。

ちなみに本書の原題は *Die Bibel verstehen*。「入門書」とは書かれていない。むしろ企画されているのは、「聖書を（よりよく）理解すること」なのである。そこで、まったくの初心者というより、聖書に少し触れたことのある人、さらに深く聖書に向き合いたいと思う人、聖書と出会い直したい人にとって、絶好のガイドブックとなるだろう。神の言葉を、違和感や誤解も含めて散策する「思いめぐらす」(meditieren) 楽しみに、きつと目覚めることだろう。

私も含め、「聖書を知っているはず」の、あるいは「聖書を知っているつもり」の人へ、ぜひお勧めの一冊。

(かやま・しんじ) 日本基督教団六角橋教会牧師
(四六判・二二二頁・本体二〇〇円＋税・キリスト新聞社)

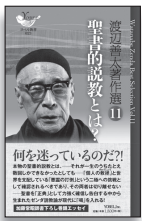
渡辺善太著作選①

*ヨベル新書24 待望の復刊！

聖書の説教とは？

加藤常昭師による
書き下ろし
巻頭エッセイ

8月上旬刊行予定！



辻哲子先生 現実から投げかけられた問題を受け止めつつ、聖書に向き合い、六十六巻の正典から縦横無尽に適確な御言葉をもって問い返され……その考察を鋭い洞察力をもって説き明かす聖書の説教。(本のひろば 著作選①書評より)

神学者加藤常昭師による書き下ろし巻頭エッセイ。なぜ「聖書の説教とは？」は必読すべき書物なのか。を収録。如何に現代の教会がこの本の持つ大切な意義が語り尽くされる。牧会者必読の本に仕上がっています。

◎新書判美装・三三〇頁・一、八九〇円(税込)

第一期 渡辺善太著作選 全13冊別冊1

新書判・本体1,800円＋税 (既刊分)

- ① 偽善者を出す処 — 偽善者は教会の必然的現象 —
 - ② 現実教会の福音的認識、他
 - ③ 聖書論 — 聖書正典論 1/3
 - ④ 聖書論 — 聖書正典論 2/3
 - ⑤ 聖書論 — 聖書解釈論 1/3
 - ⑥ 聖書論 — 聖書解釈論 2/3
 - ⑦ 聖書論 — 聖書解釈論 3/3
 - ⑧ 聖書論 — 聖書神学論 1/2
 - ⑨ 聖書論 — 聖書神学論 2/2
 - ⑩ 聖書論 — 聖書学体系論 — 試論、他
 - ⑪ 聖書の説教とは？
 - ⑫ わかって、わからないキリスト教
 - ⑬ 教会の現実とその存続の不思議さ
- 別巻 岡村民子 対話の場としての正典他

マイケル・オー著 和解を通して

「ローザンヌ運動」の新総裁！ 神の和解と宣教を語る！ 世界ローザンヌ運動新総裁に選出された42才のマイケル・オー博士が神の和解と宣教を証しの形で語りかける本邦初の著作。
最新刊*ヨベル新書・64頁・400円＋税

株式会社ヨベル YOBEL INC.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社

ロマ書と現代の聴衆をつなぐために不可欠の書
P・アクティマイアー著
村上実基訳

現代聖書注解 ローマの信徒への手紙



越川弘英


本書をもって「現代聖書注解 インタープリテイション」の
新約聖書の部（一七巻）が完結する。日本語訳が始まったのは
一九八六年のことだから、すでに三十年近くを経過したことに
なる。ご承知の方も多いと思うが、この注解シリーズの特徴的
なコンセプトは、聖書の言葉のひとつひとつ綿密に注解するこ
とよりも、その文書の全体構造を明らかにした上で単元ごとに
まとまった解説を行う点にあり、さらにはそうした注解が教会
における聖書研究や説教のための資料として用いられることを
想定している点にある。その意味でこのシリーズは、一方に厳
密な聖書の研究成果を踏まえながら、他方では教会活動におけ
る実践的なりソースとして貢献するという、双方の分野を結ぶ
一種の「繋ぎ」的な役割を企図した聖書注解としてユニークな
位置を占めている。本書の著者であるアクティマイアーはこの
シリーズ全体の編集担当者のひとりであることもあって、本書
ではとりわけ右に述べた二つの特徴を色濃く反映した注解を試
みているように感じられた。

目次に沿って記すと、まず「序論」において、パウロの思想
背景などの分析から始めてローマの信徒への手紙（以下「ロマ書」
と略す）の構造や概要が解説されている。著者はロマ書の中心
的テーマを「ご自分の反抗的な被造物に対してご自身の主権を立
て直される神の恵みの行為にある」（四五頁）と理解し、注解
の本文では各部のタイトルとサブタイトルにすべて「神の主権」
と「恵み」というキーワードを用いる。すなわち、「第一部
神の主権と過去の問題——恵みと怒り」（一章一節〜四章二二
節）、「第二部 神の主権と現在の問題——恵みと律法」（四章
二三節〜八章三九節）、「第三部 神の主権と将来の問題——イ
スラエルと神の恵みの計画」（九章一節〜十一章三六節）、「第四
部 神の主権と日々の生活の問題——恵みと生の構造」（一二
章一節〜十六章二七節）という区分である。著者はロマ書を過
去・現在・将来、そして日常生活に及ぶ神と人間との関係の課
題とその展開を解き明かすものとみなし、それぞれの時にあつ
て「神の主権」と「恵み」が具体的にどのような形をとり、ど

のようにして私たち人間に働きかけるかを描き出そうと試みて
いる。また本文を補足する重要な論考として著者は四つの「考
察」を加えており、その中には「ローマの信徒への手紙におけ
る『義』（信仰義認）をめぐる議論も含まれる。
実践神学に関心を寄せてきた評者がとくに注目したのは、
（先にも記したように）説教やキリスト教教育の任にあたる人々
に対する有益な示唆が各所に散りばめられている点である。ロ
マ書の各単元に対する説得力のある解釈を踏まえた上で、教会
における教育や説教で取り上げるべきテーマや思いめぐらすべ
き課題について具体的な提言が記されている。とりわけ第四部
の「日々の生活」を取り上げた部分では、世俗社会との関わり
（三三七頁）、国家や権威あるものとの関わり（三三三頁）、エキ
ュメニカル運動（三三四頁）などといった現代的で身近なテー
マがいくつも取り上げられている。
説教への示唆に関して言えば、著者の念頭には北米で普及し

ている聖書日課（おそらく『改訂共通聖書日課（RCL）』であ
ろ）と教会暦が前提されているようである。旧約、使徒書、福
音書という三個所からの日課を互いに関連させ響き合わせなが
ら福音を語る方法は、日本のプロテスタント教会ではまだあま
り一般的ではないように思われるが、本書はそうした面でもひ
とつの新鮮な示唆を与えてくれる。もちろん講解説教や釈義を
重んじる説教の準備に際しても、この注解書が十分な力を発揮
するであろうことは間違いない。
翻訳はとても分かりやすい文章となっており、熟考された訳
業であることが感じられる。牧会の多忙な日々の傍らでこれだ
けの作業を進めるにはひとかたならぬご苦労があったことであ
らう。訳者のご尽力に敬意を表したいと思う。

（こしかわ・ひろひで 同志社大学キリスト教文化センター教員）
（A5判・三九四頁・本体五八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）

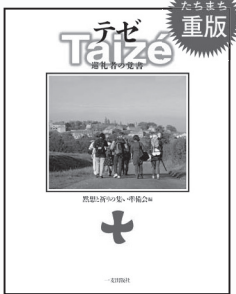


テゼ

巡礼者の覚書

黙想と祈りの集い準備会*編
Taizé


たちまち
重版



世界中の青年たちの心を
とらえつつけるテゼ。
みずからを（交わりの譬え）
とよぶテゼ。

カラー写真満載（約80枚）。
プレゼントにも！
月刊「スピリチュアリティ」連載
待望の単行本化

A5変型判
定価 1,890 [本体 1,800 + 税] 円
ISBN978-4-86325-059-8



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

黙示録は、こんなにも現代と関係が深い書なのか
村上 伸著

ヨハネの黙示録を読む



南 吉衛

本書の出版に至る経緯については、著者自身が書物の冒頭「はじめに」のところで詳しく述べている。ヨハネの黙示録第二章が三部に分けられているがこの分類は、『新エルサレム聖書』に近い。多くのキリスト者にとってヨハネ黙示録は、難解であつて、とっつきにくいという印象がもたれているように思う。それは、非常に多くの謎めいた言葉が語られているからである。しかし、本書は、まるで聖書の入門書のように、ヨハネ黙示録の謎を解くことは勿論のこと、旧約聖書、特に創世記、イザヤ書、エゼキエル書、詩編などから、さらに新約聖書のイエスの言葉やパウロの言葉が多々引用されている。

黙示録に度々出て来る「封印」についても、封印を開いて、謎めいた言葉を解いて行くという方法しか、ネロ皇帝の迫害の時代にはすべがなかったことを知る時、難解な書物を平易に読むことが出来る。聖書に出てくる「色」には、それぞれ意味があることを知る時、聖書に対する親しみが増して来る。例えば、白は天上の色、赤は血の色、黒は神の裁きを表すなどである。全体を通して特徴的なことは、著者がヨハネ黙示録の時代背景

景を丁寧に説明し、その時代が、現代に似ているという指摘がある。ヨハネが語ったことは、現代でも多くの実例があると言われる。度々出て来る言葉は、ローマ皇帝ネロによつて迫害を受けている当時のキリスト者の次のような言葉である。「このような苦難の中で、教会は、世界は、そしてわれわれはどうなるのだろうか？ こんなことをして教会はどうなるのだろうか？ 先が見えない」。そのような現代にも通じる閉塞状態の中で、ヨハネ黙示録が書かれ、読まれたのである。「われわれはどこへ行こうとしているのだろうか？」この問いが全編を貫いている。ネロの迫害は、戦中・戦後について言えば、ヒトラーの時代であり、日本の軍国主義の時代である。同時に「天皇を神とする」イデオロギーに屈服した戦中の日本の教会であった。従つて本書には、度々ボンヘッファーや、キング牧師の名が、更に非暴力平和主義者のガンジーの名が出て来る。一九三〇年生まれの著者自身の個人的な経験（私は十五歳の時に、それまで自分が拠り頼んできた思想的土台が根底から崩されるといふ経験をした。……絶望し自信も失った）一九二頁、更に著者が

新聞などを通して知った、キリスト者の生き方はわれわれ読者の心を打つ。一例を挙げれば、一人のイスラエル陸軍の現役中佐が自爆テロの被害にあつて息を引き取った時、死の直後、健全であった中佐の臓器を、ユダヤ人とパレスチナ人双方に提供することを、長男が承知したという話である（七九頁）。

ている。「徹底して他者を愛したイエス。どんな人とも愛し合つて共に生きて行くべきことを教えたイエス。野の花や空の鳥、小さな子供たちや虐げられた人々など、この世で最も小さいものの命を慈しんだイエス。このイエスの言葉が『神の言葉』なのであり、これが最後には一切を支配するであろう」（二七七頁）。

本書は全体としてコンパクトにまとめられているが、一つの黙想の最後に、二、三行でまとめられている言葉が印象的である。例えば次の言葉である。「一体我々はどこへ行こうとしているのだろうか？ ヨハネ黙示録はその問いに答える。悪しき支配は必ず終わる。神は、正しく生きようと真剣に祈り、そして努力している者たちを決して見捨てたまわぬ。『キリストと共に統治する』のは彼らなのだ。ここに、我々の希望がある」（二八一頁）。更に著者は、黙示録の中心にイエスが立っていると言つた後、次のような言葉で一つの黙想を締めくくつ

恐らく多くのこの書を手にした読者は、ヨハネ黙示録が、こんなにも現代社会と関係の深い書であることを知り、ヨハネの信仰に励まされ、信仰者としてこれからわたし自身がどう生きて行くかを問われるであろう。著者が、更に読者に勇気と希望を与える書物を出版されることを、心から願っている。

（みなみ・きちえ 日本キリスト教団養名教会牧師）
（四六判・二〇八頁・本体一八〇〇円＋税・日本キリスト教団出版局）



新刊



宗教学論叢 18

夢と幻視の宗教史

【下巻】

河東 仁 編

●A5判上製 本体4,000円＋税

河東 仁 日本の昔話と夢／
阿部 珠理 ヴィジョンを求めて泣く／
渡辺 和子 『ギルガメッシュ叙事詩』における夢とその周辺／
佐々木 光俊 アスクレピオス信仰／
宮内 ふじ乃 初期写本挿絵に描かれた創世記の夢／
細田 あや子 ハインリヒ・ゾイゼのヴィジョン／
他3篇を収録。

ISBN978-4-86376-037-0

LITHON [リットン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

史的・正典的な解釈に基づくと聖書入門の好著
落合建仁・小室尚子 著

聖書入門
主を畏れることは知恵の初め



嶋田順好

本書は金城学院宗教学主事の落合建仁氏と同大学文学部宗教学主事の落合建仁氏の協働によって生み出された。当然のことながら金城学院大学におけるキリスト教概論の講義で用いるテキストとして著されたものである。それゆえ副題もスクール・モットーの箴言第一章七節「主を畏れることは知恵の初め」から採られている。

大学の教養教育における質保証ということが、しばしば指摘される。その観点からすれば、キリスト教大学で建学の精神に即した必修の基幹科目を担当する者同士が、共通テキストを生み出すのは、当然の課題と言えよう。しかし実際は、多くのキリスト教大学でそのようなことにはなっておらず、講義の展開はそれぞれの担当者の裁量に委ねられ、よく言えば個性を存分に生かした講義、悪く言えば自分の研究領域に偏った講義がなされている面も少なくない。しかも当然のことだが、しっかりとしたい共通テキストを出版するにあたっては、執筆者同士の間に、基本的な信仰的、神学的な一致、カリキュラムに関する

共通の理解、互いに信頼し、尊敬しあう人格的な関係性が前提とされていなければならない。それだけに一見簡単なことのようにうだが、このような企てを実現に至らすことは容易ではない。金城学院大学におけるキャンパス・ミニストリーの健全さが、申し分なく示された試みとして評価したい。

本書の構成は次のようになっていて、序論1キリスト教の世界観、序論2キリスト教の正典としての聖書、第1部旧約聖書1旧約聖書とは、2天地創造、3墮罪、4族長物語、5モーセと出エジプト、6十戒、7王国の成立と展開、8預言書1、9預言書2、10文学書、第2部新約聖書1新約聖書とは、2歴史的イエスから「福音」へ、3イエス・キリストの生涯1誕生から受洗まで、4イエス・キリストの生涯2十字架と復活、6イエス・キリストの教え1神の国と神の愛、7祈り、8教会の誕生1原始教会と使徒たちの働き、9使徒パウロの生涯と働き、10第二パウロ書簡と他の書簡、ヨハネの黙示録。

落合氏が旧約聖書、小室氏が序論と新約聖書の執筆を担当し、各章は五頁、本文四五〇〇字程度にまとめられていて読みやすい。しかも、聖書を理解する上で急所となる代表的テキストが、そつなくしっかりと取り上げられていて、よくぞこれだけ簡にして要を得た記述ができるなど感心させられることがしばしばであった。そもそも「はじめに」の書き出しが、フランシスコ・ザビエルへの言及から始められたところに新鮮な驚きがあった。概してプロテスタントの研究者は、日本に福音をもたらした最初の人物を軽視しがちだからである。続く序論1ではキリスト教の世界観として神による創造と人間の墮罪、そしてイエス・キリストによる救いとその完成としての終末という救済史的視点が提示される。更に序論2では、聖書を単なる歴史書としてではなく、キリスト教の正典（信仰の規範）として位置づけ、代々の教会の伝統に連なる礼拝的なペースペクティヴのもとに聖書を読むことの重要性が強調されている。まさにそこに立脚

しているということこそ本書の特徴がある。したがって歴史的批評的な聖書学の研究成果は適切に踏まえられつつも、前面に出てくることはない。意外と思われるかもしれないが、正典的・救済史的な視点に立つて、これだけ平易且つ適切に聖書全体を鳥瞰させる信頼のおける入門的なテキストは、身近にたくさんありそうである。いざとなると容易には見当たらない。言い換えれば、本書にはキリスト教学校と教会を結ぶ線がしっかりと息づいているということになる。それゆえ、教会の入門講座や受洗者教育においても大いに用いられてしかるべき好著と言える。

なお半期十五回の講義が標準となった現在、改訂の折には、旧約聖書では、預言書と詩編、新約聖書では、イエスに出会った人々とパウロの記述を増補していただければ更によいと思う。
(しまだ・まさよし 金城学院宗教学院長)

聖公会出版

—— 新 刊 案 内 ——

対照・太宰治と聖書

編者 ● 鈴木範久・田中良彦

本書は愛読者の絶えない太宰の作品と聖書についての本格的な資料。キリスト教関係者のみならず、近代日本文学に関心がある者にとって垂涎の著作。



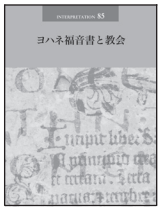
(A5判 本体定価3800円)

ヨハネ福音書と教会

日本版インタープリティシヨン 85号

総合監修 ● 日本昭男・大貫隆・西原康太

ヨハネ福音書は「教会の書」と呼ばれる。それは教会のあり方、個人の信仰のあり方を問いつけているからである。本号は改めてヨハネ福音書を読み直すときのよい手引きとなるはずである。



(A5判 本体定価2600円)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nask-bookshop@company.email.ne.jp

民主的な民衆がなぜ戦争を推進する政治家を選んでしまうのかを説明する本

アルノ・グリューン著
村橋嘉信・松田眞理子訳

私は戦争のない世界を望む

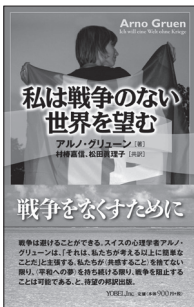
「なぜ戦争が起こるのか」「どうすれば戦争を避けることができるか」

戦争や暴力を容認する文化や人間の深層にあるものを心理学的に分析し、「なぜ戦争を企てる政治家が現れるのか」、また「なぜ自分は自由で民主的だと思っている一般市民が戦争を企てる野心家を指示してしまうのか」について説明し、戦争をやるめるためにはどうすればいいかを考えている本です。

幼少期から愛情深くありのままの姿を認められて育たなかった人間や、財産や地位において劣等感を感じ続けながら過ごしてきた人間は、自分には価値がないと感じたり、自分に対する憎しみを抱くようになります。

そのような無価値感や自分への憎しみを抱く人は、それを麻痺させるために、敵対者を作って憎悪をかきたてたり、自分が一体化できる強い対象を見つけようとします。国家主義者や愛国者を自称する人々の多くはこのような心理的な問題を抱えています。

この本では、アドルフ・ヒトラーやジョージ・W・ブッシュ



富田正樹

といった人物を主に例として挙げていますが、これは現代日本のネトウヨと呼ばれる、他国に対してやたらと居丈高な態度を貫こうとする右翼的な人々についても当てはまることだと思えました。自分には何の値打ちもない、自分はなぜ生きているのかわからないという空しさや哀しみから目を逸らすには、圧倒的な権威と自分を同化するのがいちばん簡単です。伝統宗教がカルト化する時にも同じ現象が起こっていると云えるでしょう。

特に、国家主義においては、「毅然たる態度」「断固たる主張」「有無を言わせぬ権力」「絶対に撤退を認めない覚悟」などなどといったものに美学を感じるようになってしまうと、とんでもなく暴力的で破壊的な行動が始まり、わざわざ敵を作り、憎悪を煽り、戦争を始め、死ぬことさえも美化してしまうという狂気に陥ってゆきます。

その心のメカニズムをこの本は心理学の観点から、わかりやすく説いて聴かせてくれます。

このような観点に立てば、たとえば今の日本で、為政者が労働問題をさらに悪化させて若者世代の雇用と生活を不安定化させる無くす事ができます。そのためには、まず自分を受け入れると同時に、子どもたちに対しても、その子の弱さや失敗を軽蔑せず、粘り強く受け容れて、それに一緒に耐え、一緒に乗り越えるという教育法が必要になるでしょう。また、自分をありのままに受け止めることと同時に、他の子も同じようにそのまま愛されるべき存在なのだということを体験してもらいたくないでしょう。

述べられていることの根底には心理学の裏付けがありますが、心理学の専門用語を一切使わずにそのことを説明してくれています。とても良い書ですので、是非お読みになることをおすすめします。

(とみた・まさき)日本基督教団徳島北教会牧師、同志社香里中学校高等学校 校聖書科教諭

(四六変型判・一九六頁・本体九〇〇円＋税・ヨベル)

ペットも天国へ行けるの？

井上彰三 [著]

退職後ルーテル学院大学、同志社大学大学院(神学修士)、立教大学大学院でキリスト教神学(霊儀)について学ぶ。元NCC宗教研究所研究員。

被造物は神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいると語るパウロ。これまでの人間中心主義のキリスト教を根本から問い直し、愛する動物たちのいのちと死、死後の世界までを聖書から丁寧に直す反響の書! 3・11以降をも視野に入れた心あたたまるわかりやすい心優しい書。ヨベル新書023 ●新書判・二三二頁・九〇〇円(税別)

ヨベルの近刊のご案内
渡辺善太著作選
【全13巻別巻1 第6回記念】

① 聖書的説教とは?
書下し巻頭エッセイ:「なぜ『聖書的説教とは?』は必読すべき書物なのか」
加藤常昭師

ヨベル新書 024 【7/25 発売予定】
新書判・320頁・1,800円(税別)

株式会社ヨベル YOBEL Inc.
info@yobel.co.jp
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858
自費出版の専門出版社



「責任」という言葉への真摯さ

宗藤尚三著

核時代における人間の責任

ヒロシマとアウシュビッツを心に刻むために



川上直哉

二〇一一年三月十九日、東京電力福島第一原子力発電所が爆発した。

その爆発の後すぐ、様々な声が聞こえた。「ほら見る！」という大きな声。他方で「細い沈黙の声」のように、「申し訳ない」という声も。「私たちの力不足だ」という声。その声は、ヒロシマ・ナガサキのヒバクシャの方々からも、聞こえた。「我々は予見していたのに、止められなかった」という声。その声の中に滲む尊厳。「責任がないのに責任を負う」という、高貴。

ヒロシマのヒバクシャである著者・宗藤尚三さんは、本書において、そうした声を私たちに届かせる。『心の内なる核兵器に抗して』（キリスト新聞社）を二〇一〇年に著した宗藤さんは、「生涯、被曝牧師としての使命とは何か」を問うてきた「日本の被曝キリスト者」として、「いかなる然りも含まない否！」を核に向けて突き付けていた。しかしそこで「原発の問題にたいしては積極的な問題としてとりあげていなかった」とことを反省し、本書は上梓されたという。「責任」という言葉へ

の、宗藤さんの真摯さが、そこに見られる。

私は今、世界教会協議会（WCC）の仲間と共に、「核から解放された世界」を目指して、フクシマから被曝者の連帯を構築しようとしている。七月二日からスイスでWCCの中央委員会が開かれ、原発を神学的にどう考えるべきかが、議論される。その同じ日に、私はタヒチで核実験の被曝者を覚える催事に参加し、長崎市長の公開書簡と共に、「フクシマの石」をそこへ届ける役に就く。北半球と南半球で、ヒバクシャを覚える夏となる。私は今、その旅の途中、飛行機の中で、この原稿を書いている。

その私に、宗藤さんの書物は貴重な励ましを与えた。以下に列挙しよう。

第一に、「低線量被曝と内部被曝」の問題について。これこそ、フクシマの課題である。それは福島県に限らない。県境線は、私たちの頭の中にだけある。それは明治政府が恣意的に引いたものに過ぎない。北は岩手県から南は東京都まで、海外から見れば「フクシマ」である。その広域に広がる問題が「低

線量被曝と内部被曝」である。この問題は「現実には今日の原発認定訴訟の大問題になっている」ほど、困難なものである。この指摘に小さな戦慄を覚えつつ、しかしヒロシマ・ナガサキ・フクシマの連帯の可能性も、そこに予感される。このことは、励ましとして響く。

第二に、「カナダやオーストラリアなどのウラン鉱山の採掘から始まって……ネバダやセミパラチンスクや南太平洋やその他各地で二千回核実験が行われ……死の灰の降下による影響は全人類に及んでいる……。ヒバクシャという言葉は人類のアイデンティティそのものである」という指摘。この地球上には、隠された・忘れられた被曝地がある。フクシマは、これらの被曝地に比べるなら、実に自由に被害を訴えることができ、注目を集めることができる。だから私は、フクシマの責任を覚える。その責任感を共有する先達がいること。そのことに、大きな励ましを覚える。

第三に、「人間の貪欲と傲慢」を原発に見ていること。このことは、本年3月に仙台で開催された「東日本大震災国際会

議」の大会宣言文に通じる。当事者としての罪責の告白こそ、キリスト者の重大な役割である。その役割を担おうとする時、常に内なる霊的戦いが招致される。そんな私たちは、宗藤さんの言葉に叱咤激励される。

第四に、戦後日本の原発政策過程の整理された提示。その開始は、第五福竜丸の被曝の直後であったことの指摘もそこにある。福島原発事故の直後に新しい核政策が開始されるといふこともあり得る、という警告が、聞こえる気がする。

第五に、核兵器の犯罪性と核発電所（原発）の犯罪性の明示。核兵器投下に関わった一人の人物の生涯を中心に置くことで、本書はその非人道性を鮮やかに提示する。

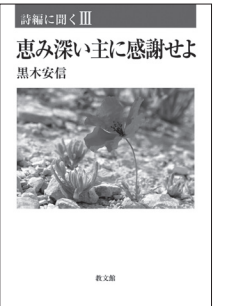
学ぶことは多く、読後の印象は深い。「政治においては服従は支持と同じである」という宗藤さんの言葉は、今、厳しく響く。心して読み、深く沈思黙考を促される書物である。

（かわかみ・なおや／仙台キリスト教連合被災支援ネットワーク・NPO法人東北ヘルプ事務局長

（新書判・一七二頁・本体一〇〇〇円＋税・ヨベル）

牧会者として、キリスト信仰の立場から詩編を読み取る
黒木安信著

恵み深い主に感謝せよ 詩編に聞く III



関田寛雄

本書は著者による詩編講解、『新しい歌を主に——詩編に聞く I』、『嘆きの谷を通るときも——詩編に聞く II』に続く最終部分で詩編一〇一編より一五〇編の講解である。これによって著者の詩編講解は完結することになる。その完結を心から喜ぶと共に、その労を促してやまなかった著者の詩編への愛に敬意を表したい。この三部作はキリスト教会の詩編の学びにとって豊かな貢献となることであろう。「恵み深い主に感謝せよ」という本書のタイトルは、歴代誌上一六・34と詩編一〇六・1、一〇七・1、一一八・1、一一八・29、一三六・1に記されているものから付けられている。「まえがき」によると、第二次大戦下のホーリネス系教会の弾圧の中で獄中生活を余儀なくされたある牧師を生かし力つけたのがこの言葉であり、今もその教会の礼拝堂に掲げられているとの事である。苦境の直中で発揮される詩編の恵みの力に他ならない。

本書の読者にとって詩編を親しく分り易いものにしてくれる著者の配慮について述べておきたい。著者は詩編の各編の講解の冒頭にその編の序説的説明、即ちその詩編の作者、時代背景、その詩の性格などを簡明に解説し、その上でその編の構成、展

開に従って小見出しを付している。例えば一〇二編では「一、無垢な心をもって（1—2節）」、「二、悪との決別（3—5節）」、「三、朝ごとに（6—8節）」のような具合である。既刊二書の場合と同様、このような小見出しを付して各部分の内容を主題化するという作業は大変なものである。これは正に著者の各編に対する熟読玩味による黙想から生れた表現であって、読者の理解を大いに利する適切な配慮である。

更に著者は詩編研究をめぐる著名な旧約学者の注解書を広く参照しつつも、その建徳的部分の引用を巧みに行なっており、これまた詩編理解を一層深めるのに役立つ。例えばA・ヴァイザー、J・L・メイズ、G・A・F・ナイト、A・B・ローズ、日本人では浅野順一、木田献一などが引用され、著者の詩編研究の姿勢も窺われる。それと共に旧約聖書研究を青山学院大学大学院旧約聖書神学専攻で学んだだけに、詩編の翻訳についても細心の注意を払い、新共同訳聖書に基づきながらも、「文字通りには……」と独自の訳を紹介したり、フランススコ会訳、関根正雄訳、口語訳、新改訳などを参照しつつ厳密な意味内容の深みに読者を導いてくれる工夫も怠らない。そして宗

教改革者の伝統を尊重して、「聖書による聖書の読解」を実行し、旧新約の各所からの引用によってある部分の理解を深める作業に努めている事も注目される。

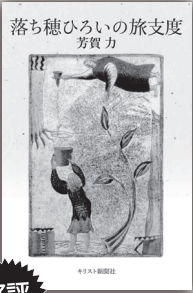
一番大切な点は著者が明確なキリスト信仰の立場から詩編を読み取っている事である。例えば「この詩人は、キリストの十字架が起るずっと前の人である。その彼が、『信仰の道をとたしは選び取りました』（30節）と告白したとき、新約から見れば彼はキリストの十字架を信じているというその『信仰の道』を選び取ったということになる」。これは一一九編の講解の一部である。つまり詩人の信仰的実存は遙かにキリスト信仰に生きる者の実存を指し示しているという視点が、著者の最も大切にしている事である。それ故に強烈な民族主義的な内容の報復を祈り求めるような詩編、例えば一三七編については、「七の七十倍までも赦しなさい」（マタイ一八・22）と教えられたお方を信じる新約時代の私たちは、『悪に負けることなく、善をも

って悪に勝ちなさい』（ローマ一二・21）との福音の真理に生きるべきである」と勧められるのである。そして悲惨な運命を嘆く詩編の講解では、「私たちは、そうした私たちのすべての重荷を背負い、痛み苦しみを引き受けて十字架に架かられたイエスを仰ぎ、主の勝利にあずからねばならない」との慰めを聞くのである（一一三編）。

最後に本書の「あとがき」について言及したい。昨年召天された青学大時代の恩師、木田献一氏の著者への私信が引用されているが、いわゆる「聖書学の客観主義的読み」の不充分さを語りながら、「牧会者の読み」を評価しつつ著者を励ましている木田氏の言葉の中に、師弟間の聖書と牧会を介しての深い信頼の交わりを示されて、評者としても暖かい感動に導かれたことであった。

（せきた・ひろお 日本基督教団神奈川教区巡回教師）
（B6判・三〇四頁・本体二〇〇円＋税・教文館）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.



好評発売中!

▼神学者として注目を浴びる著者による神学的随想集 落ち穂ひろいの旅支度 芳賀力 著

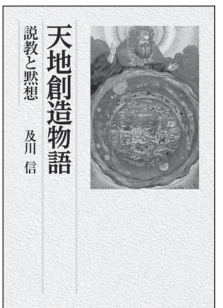
本書は「思索の小さな旅」（キリスト新聞社刊品）に続く随想集で、旅に寄せての雑感を書き綴ったものです。神学的紀行文を書くというには筆者にとって、収穫のおぼほれに与るような落ち穂ひろいの趣きがあります。とは言っても限られた日程なので、学会に向いたついでに折りに強行軍を敢行することもたびたびでした。あまり堅いものはかりでは食傷気味になるので、自分のブログに気軽に記したものを少し加えました。（本書あとがきより）

■四六判 190頁 1600円

キリスト新聞社
351-0114 埼玉興和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (価格税別)
E-Mail. support@kirishin.com
URL. http://www.kirishin.com

時を超える福音の神髄を鮮やかに示す
及川信著

天地創造物語
説教と黙想



生原美典

聖書を理解するために、私たちは高い山に登らなければなりません。高い山に登ると、聖書が立体的に見えてきます。

神学校卒業の頃、ある教師に言われました、「派遣されたら、その町にある高い所に行ってみるといい。自分の遣わされた町が、立体的に見えてきますよ。」言われた通りにしてみました、幾度も。少しずつでしたが、見えてきたものがありました。

子どもの頃、初めて富士山に登った日のことは、今も鮮明に覚えています。当時は山梨に住んでおり、家から見る富士山もきれいでしたが、地理感覚が乏しいため富士山と自分の位置関係が分からない。初めて父に連れられて登った。そこで見たものは、それまで想像もなかった壮大な雲の上の光景でした。西には南アルプスの山々が頂を雲海の上に見せている。北には八ヶ岳。その麓には何度か行っていたのに、その位置関係が分かっていた。ところが甲府盆地が見える。奥秩父が見える。山々のてっぺんからその裾野に広がる街並みまで、高い所ではないと分からない地の塊が、そこにはあった。それからというものの、家でも旅先でも、自分のいる位置が、全体の広がり

中で立体的に掴めるようになりました。今、自分がいる位置が掴めるということ。これが聖書を読み解くコツです。

聖書には至る所に、印象に残る言葉があります。いつとはなしに暗唱するまでになる、きらめく言葉がある。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」ヨハ3・16

「イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました。だから、わたしたちも兄弟のために命を捨てるべきです。」1ヨハ3・16

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償ういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります。」1ヨハ4・10

こういった言葉は、いわば雲海から頭を出した山の峰のさめき。なんらかの関連でそれらの峰と峰との繋がりを見つけら

れるようになります。聖書全体での位置が見えるようになります。大きな神の計画の中での、今の自分の位置が分かってきます。

及川信先生の新たな説教集が出ました。それは聖書の最初の峰、天地創造を説き明かしたものです。すでに創世記関連だけでも四冊が刊行されています。それと同様、いやその頭たるものとしてこの書が出たことを心から喜んでいきます。

全一四編の説教。いずれもこれまでと同じく日本基督教団中洪谷教会の礼拝でなされたものです。ただ時期的に最も以前のもの。十年余りの歳月がすでに流れています。しかし本当に良いものは、古びたりなどしません。徹底した聖書研究に基づく牧者の言葉は、その時代の問題を鋭く抉りつつ、変わらぬ福音の神髄を、一言ひとこと鮮やかに示してくれるのです。

当時の問題はあの9・11後の世界だった、と著者自らあとがきで明かしている。その通り随所に、権力、暴力、報復、世界の支配の問題が触れられています。天地創造物語の記された時

代の混沌との類比で、現代の私たちの深い闇について、時を超えて聖書の世界に引きずり込まれるのです。しかし読者はそこでこそ神の遠大な計画を、牧者と共に見渡すことになります。これまで同様、この書にも黙想が付されています。こちらは最近のもので、あの3・11後の日本を問題にしています。「震災」とその後のこの国の歩みを考慮することなく、聖書を読むことはできません」と、これもあとがきにあるように、しかもヨブ記を中心とした聖書全体の見渡しながらの、圧巻の神学書となっています。終末を見据えての、今の私たちの位置が、きつと見えてくることでしょう。

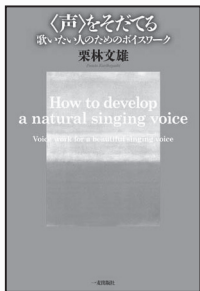
(はいばら・よしのり) 日本基督教団松原教会牧師
(四六判・二九四頁・本体一八〇〇円+税・教文館)



〈声〉をそだてる

歌いたい人のためのボイスワーク

栗林文雄
Fumio Kuribayashi



よく通り、柔らかく響く
〈声〉のそだて方を伝授

教会の聖歌隊
会衆の讚美
(ひそかに歌に悩んでいる牧師)
力強い〈声〉で語りかけたい牧師
〈声〉を使う教師・サラリーマン
歌は「苦手」と思っている
あなたに!

A5 変型判
定価 [本体 1,600 + 税] 円
ISBN978-4-86325-066-6



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
http://www.ichibaku.co.jp
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

■新教出版社

なぜキリスト教は成功したか

——ローマ帝国の信徒たち(仮題)

ロドニー・スターク著／穂田信子訳

片々たる辺境の新興宗教に過ぎなかったキリスト教が、なぜ短期間にローマ帝国を席巻できたのか。歴史学者でない社会学者が、統計学的な分析を武器にこの謎を見事に解明して話題を呼んだ書。待望の邦訳。

四六判・312頁・予価3000円

■日本キリスト教団出版局

介入する神の言葉

——洗礼を受けていない人への説教

W・H・ウィリモン著／上田好春訳

福音宣教による神との出会いの恵みによって、教会は刷新されていく。そして、それが新たに未受洗者への宣教をおこなう力となっていくのである。説教7本を収録。

四六判・280頁・本体2400円

グループで聖書を学ぶABC

R・ヘステネス著／朴 憲郁、上田好春訳

自分たちで新たに聖書の学びを始めたという方々へお勧めの一冊。グループでの学び方、準備、進め方、ワークシートを示しながら、わかりやすく解説。

A5判・232頁・本体2400円

INFORMATION

近刊情報

■教文館

改革教会信仰告白集

関川泰寛、袴田康裕、三好 明編

改革教会が重んじてきた基本信条と代表的な信仰告白・信仰問答を1冊に収録。古代から現代に流れる改革教会の福音理解が一望できる画期的な書。

A5判・720頁・本体4500円

礼拝の祈り

——手引きと例文

鈴木崇巨著

礼拝では何を・どのように祈ったらよいのか。祈りの手引きと、牧会祈禱と献金祈禱、招詞の例文を収録。礼拝をより豊かにすることを願う、牧師・信徒に必携の書!

四六判・168頁・本体1400円

■キリスト新聞社

聖書の平和主義と日本国憲法

原田博充著

安倍政権のもとで日本国憲法改定問題がかつてないほど現実味を増している。平和が失われないうちに、日本国憲法の問題を訴える一冊。

四六判・226頁・本体2000円

■キリスト教視聴覚センター(AVACO)

手話で福音を伝えよう

小嶋三義著

聖書をテキストにキリスト教手話を学ぶ、手話中級者以上におすすめる一冊。クリスマス、イースターなどのキリスト教行事にもちいることができる聖句や、礼拝式文の手話訳をイラストでわかりやすく表現。解説付き、キリスト教用語索引も掲載。

B5判・96頁・本体1500円

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区臨海2-2 様カシヤンセンタービル	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kristok.youshoten@ame@ybb.ne.jp	00150-9-595509
バイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcv:ds/uev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjorden@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakabos	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbok.net/	kcbokcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2014年9月号

特集

聖霊を神学する ― 忘れられた神？

三位一体の第三の位格である聖霊とは何か？ 教会で語られることのみ多い聖霊について、多様な視点から考えてみたい。

寄稿者 大坂太郎、袴田玲、水野宏、深谷美枝

映画「アア約束の舟」を私はこう観る

新連載 現代日本の「福音」……高橋優子

連載 佐藤優、月本昭男、青野太潮、沢知恵他

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

神の国の種を蒔こう

ヴォーリズ著 キリスト教メッセージ集



建築家、教育者、実業家、伝道者……日本を愛し、キリストのために八面六臂の活躍をしたヴォーリズの信仰の息吹を伝える文集。

本体2000円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
TEL : 03-3260-6148
Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

米国の国民的歌手ボブ・ディランの代表作「ライク・ア・ローリング・ストーン」(一九六五年)の歌詞が書かれたオリジナルの直筆原稿が六月二四日ニューヨークのサザビーズ競売に掛けられ、二〇四万五千ドル(約二億八六〇万円)で落札された。歌詞はホテル備え付けのメモ用紙四枚に鉛筆で記されており、校正の跡のほかに注釈や絵が書きこまれている。

ディランの初期の作品に「風に吹かれて」(Blowin' in the Wind)と云うのがある。政治的抗議のメッセージを投げかける問いかけと抽象的な問いかけが交互に繰り返されるこの歌はピーター・ポール&マリーのカバーによって世界的に大ヒットし、作者のディランを一躍有名にした。また一九六〇年代のアメリカ公民権運動の賛歌とも呼ばれ、現在に至るまでディランの作中最も愛唱されることの多い歌曲となっている。

ウクライナ国内での親欧米派と親ロシア派の戦闘とそれに巻き込まれた形でマレーシア航空機が墜落された悲劇。パレスチナのガザ地区で繰り返されるイスラエル政府とイスラム原理主

義組織ハマスの報復合戦。いまだに政情が安定しないイラクとアフガニスタン。泥沼化するシリアの内戦。……。このような国際紛争の報道に接すると本当にいったい殺戮行為をやめさせるにはどれだけ多くの人が犠牲にならないのか、という暗澹たる気持ちになってしまう。

「風に吹かれて」では発せられた問いかけに対する具体的な答えは示されていない。それではあんまりだと私には思われるので、最後にその答えをつかむための手がかりとなる言葉を紹介しておきたい。

「戦争は(神の名において)、つまり(神学的)正当化をもって行われる。このような正当化こそ偶像崇拜である。……神学的基本的機能は一つの偶像の正体を暴露することである」(小山晃佑著/森泉弘次訳『富士山とシナイ山』四頁)。

(中川)

植民地化・デモクラシー！ 再臨運動

大正期キリスト教の諸相

キリスト教史学会編 ● 四六判・252頁・本体2,500円

帝国主義とデモクラシー思想が進展し、近代日本の転換期となった大正期の日本キリスト教史の展開を、特徴的な三つの論点を中軸に分析する。



日本人の宗教意識とキリスト教

佐々木勝彦 ● 四六判・280頁・本体1,900円

日本人の深奥にある原初的宗教意識とは何か？ 比較宗教学や宗教社会学を援用しながら日本人の宗教意識を浮き上がらせるのと同時に、真の「啓示」に基づいた「日本の神学」の構築を目指した意欲的論考。

キリスト教の主要神学者上

テルトリリアヌスからカルヴァンまで

F・W・グラーフ編

片柳榮一監訳



富士山とシナイ山

偶像批判の試み

小山晃佑 森泉弘次 訳



小 山 晃 佑 森 泉 弘 次 訳
神道・仏教・儒教などの影響下で展開されてきた日本文化を批判的に考察することで、文化や伝統の枠組みを超えた福音の核心を示す。 ● A5判 442頁・本体3,800円

ワイマール時代のユダヤ文化ルネサンス

M・ブレンナー 上田和夫 訳

カフカ、シヨレム、ブーバー、ローゼンツヴァイクらを輩出したドイツにおけるユダヤ文化復興運動の全容を詳述。 ● A5判 400頁・本体3,900円

多彩にして曲折に富む2000年の神学史の中で、特に異彩を放つ古典的著作家を精選し、彼らの生涯・著作・影響を通して神学の争点と全体像を描き出す野心的試み。正統と異端が織り成すダイナミズムによって生まれた神学の魅力と核心を、第一級の研究者が描き出す。上巻では古代から宗教改革期に活躍した16名の神学者を紹介する。 ● A5判・352頁・本体3,900円



人間への途上にある福音

キリスト教信仰論 J・L・フロマーカ著／佐藤優監訳



20世紀の激動期にナチズムとマルクス主義の狭間を生き抜いたチエコの神学者が、ただひとつ書き遺した「キリスト教信仰論」。著者のいわば唯一の教義学である。鬼才佐藤優氏が傾倒するフロマーカの本著がここに初めて邦訳される。

◆四六判・本体3500円

既刊 神学入門 プロテスタント神学の転換点 ◆四六判・本体1800円

神とはいったい何ものか

次世代のキリスト教 ジョン・ヒック著／若林裕訳



現代に通用する神信仰とは何か？ 現代世界の多元化の問題に最も果敢に取り組んできた思想家が、自らのキリスト者としての立場に留まりつつ、独善的でない、真に普遍的な信仰のあり方とは何かを、真摯に追究した論集。「信じることのできるキリスト教」を大胆に定時。

◆四六判・本体2700円

ヘブライ人への手紙

私訳と解説 宮平望著

好評シリーズの第10作はヘブライ人への手紙の注解除です。新約の中でもユニークな「大祭司キリスト」論を展開する大書簡を、そのメッセージを伝えてくれます。

◆A5判・本体2200円



愛と正義

ポール・リクール聖書論集2

リクール著／久米博他訳

20世紀フランスを代表するプロテスタント思想家の晩年7つの論考。聖書のテキスト、解釈、倫理にまたがる不可避の連関を徹底的に追求。収録論文「愛と正義」「翻訳という範疇」ほか。

◆四六判・本体3300円

既刊 物語神学へ ◆本体2400円
ポール・リクール聖書論集1

催事案内

新教出版社 創立70年記念
連続神学講演会 第3回 (最終)

荒井 猷氏「最後のパウロ
——使徒行伝28章30-31節に寄せて」

10月25日土曜午後2時より日本基督教団 信濃町教会にて。入場無料ですが事前にお申込をお願いします。